

■効果の見える治水事業

国との連携による地震津波対策

徳島県鳴門市(撫養川)の地震津波対策

徳島県 県土整備部
東部県土整備局(鳴門) 副局長
伊藤 好美



○事業概要 徳島県県土整備部東部県土整備局(鳴門庁舎)は、香川県に隣接する徳島県北部の1市2町(面積:約2万ha、人口:約9万人)を所管しております。

徳島県では、県民の皆様を守るために、「南海トラフ巨大地震」や「活断層地震」に備え「死者0(ゼロ)を目指す」ことを基本理念として、ハード・ソフト対策を推進しており、平成25年3月に、南海トラフの地震津波の影響を受ける地域では初めて県全体の「設計津波(L1津波)の水位」を公表しました。

鳴門庁舎管内においては、県南部域に比べ『設計津波の水位』は低いものの、鳴門市大津町を始め0メートル地帯を有しており、また、大半の土地が標高1m未満と低いことから、ひとたび浸水すると浸水時間が長く、復旧が困難といった地域特性があります。

このため、国においては、小鳴門海峡沿岸や旧吉野川等の堤防について、耐震対策工事を進めています。鳴門庁舎では、この国による耐震対策の堤防と一連の防護ラインを担う撫養川堤防の耐震化や新池川水門の耐震化などを優先的に推進していきたいと考えています。

今後は、迫り来る「南海トラフ巨大地震」を迎え撃つため、国との連携による一連の防護ラインを形成する耐震対策や、「率先避難の啓発」などのソフト対策を推進し、「南海トラフ巨大地震」による「死者0(ゼロ)」の実現を目指し取り組んでいきたいと考えております。



■「鳴門市(撫養川)の地震津波対策に期待すること」

徳島県鳴門市長 泉 理彦



鳴門市は四国の東部、徳島県の北東端に位置しており、鳴門海峡をへだてて淡路島に対峙し、本州と結ぶ四国の東玄関をなしています。特に北部は瀬戸内海国立公園に指定され、観光関連の施設も「鳴門公園」「渦の道」「大塚国際美術館」など数多くあり、観光客の訪れる場所となっております。

撫養川は旧吉野川の下流部より分流して小鳴門海峡へと市の中心部を流れており、昔は塩の積み出し港として交通の要衝の地となっていました。近年では、水辺空間整備事業にて整備されました「グリムメルヘンプロムナード」などの創意工夫が認められ、平成12年7月に「手づくり郷土賞」を受賞するなど、現在も老若男女を問わず癒しの空間となっております。

また、撫養川のほりでは毎年花火大会が開催されており、県下一円はもとより、近隣他県からも大勢の人が訪れ夜空に幻想的な色合いをかもしだしています。

さて、平成25年3月に発表された「設計津波(L1津波)の水位」によると、鳴門市は多くの地域が津波の被害を受ける予想となっており、津波対策事業は本市にとって最重要課題でありまして、県におかれましては、撫養川堤防の耐震化や新池川水門の耐震化などを優先的に推進していただけるということで、津波時における地域住民の避難時間の確保等に大きな役割を果たしていただけるものと期待しております。

最後に、今後も住民の防災意識の高揚を図り、住民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを目指し、尽力していきたいと思っておりますので、関係機関の皆様方には、引き続きご指導、ご協力をお願い申し上げます。

